

【矢祭町立矢祭中学校】

I はじめに

矢祭中学校は、昭和41年創立、生徒数が128名の町で唯一の中学校である。生徒は、素直で、学年関係なく仲良く生活することができている。また、少人数の学級のため、子ども達一人一人の学習状況に応じた指導をすることができ、一人一人の活躍する場面も多く見られる。その一方で、人間関係が固定化しており、人付き合いの場が狭まったり、対人関係能力を高めることが難しかったりしている。また、人間関係を壊すことをおそれ、本音が言えない表面的な付き合いとなりがちで、人間関係の希薄化が懸念される課題がある。

矢祭町では令和6年度より人権教育を推進している。「自他を愛し、共に幸福を求めること(Well-being)ができる子どもの育成」を目指し、一人一人を大切にした教育を推進している。学校教育活動全体を通して人権教育を推進しているが、令和6年度は特別活動を中心として、令和7年度は道徳科を中心として授業研究を行い、子ども達一人一人の人権意識の高揚と教師の指導力向上に努めている。

II 研究の内容

1 研究主題

主体的・対話的に学び考え表現し、自己実現ができる生徒の育成

～認め合い、伝え合い、学び合う活動の工夫～

2 研究主題について

(1) 主題「主体的・対話的に学び考え表現し、自己実現ができる生徒」について

学習指導要領において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について示されている。生徒が資質・能力を身に付けるために、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点に立ち、授業改善を図ることが教師に求められている。

まず、主体的に学ぶためには、学ぶことに興味や関心を持ち、見通しをもって学習に取り組み、学習活動を振り返って次につなげる必要がある。次に、対話的に学ぶためには、生徒は教師が与える答えや解釈に追随するのではなく、自分自身の考えをもって、相手と話し合いながら学びを進めることが重要である。そして、深い学びのためには、知識を習得することにとどまらず、それを活用し、自ら探究することにより実現できる。

矢祭町総合教育大綱に基づいた『矢祭わかあゆ学園』ビジョンにおいて、「明るく前向きに取り組む人間性の高い人」を育てる15年間の教育を推進している。学校、家庭、地域において一人一人の存在や思いが大切にされるような「人権教育」に関する様々な取組を、授業を通して実践していきたい。

(2) 副主題「認め合い、伝え合い、学び合う活動の工夫」について

昨年度の課題としてはっきりしたことは、授業時間の中で疑問点を解決し、新しく気づき、学習内容の理解を深めるためにも、十分に思考する時間が必要だということである。そのために振り返りの時間や教師によるフィードバックを充実させなければならない。また、ICTの活用については、生徒の主体性をさらに伸ばせるような取り組みを充実させていく。その「主体的な学び」を的確に見取り「対話的で深い学び」につなげるためにも、周りの人たちと共に考

え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業に改善していく必要がある。

本副主題は2年間を通して実施し、生徒の変容や成長を把握するために設定した。令和7年度は2年次として、研究主題にある「自己表現ができる生徒の育成」の部分に特にフォーカスしていく。生徒の興味・関心を引き出し、発展的な学習にも取り組める場を設定し、アウトプットの多い活動を取り入れていきたい。また、振り返りの時間を充実させ、学んだことを自分の言葉でまとめて、学びの積み重ねができるようにしていく。

生徒が主体的に学び、生徒同士で協働して対話しながら考えることを通じ、自己の考えを広げ深める学びの実現を目指したい。そのためには、学級の一員としてお互いの良さを認め合いながら、自信をもって学習に取り組めるよう心理的安全性が高くなる支援が必要である。個々の発達段階に応じた指導を心がけ、スモールステップによってできることを増やししながら、学習に取り組ませたい。

(3) 研究の視点と手立て

【視点1】自己存在感をもたせる支援の工夫 ＜1年次＞	【視点2】認め合い、伝え合い、学び合う活動の工夫 ＜2年次＞
<p>＜手立て1＞ 分かりやすい発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ①分かりやすい言葉で ②一つの発問では、質問は一つだけ ③選択肢を設けて答えやすく <p>＜手立て2＞ 一人一人が活躍できる場の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自由に発言できる雰囲気づくり ②班活動では一人一役を与える ③事前準備をしっかり行い、自信をもたせる <p>＜手立て3＞ 個別最適化された学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ①習熟度に応じたグループ編成 ②デジタル学習を活用した指導の個別化 ③自ら課題を設定する学習の個性化 	<p>＜手立て1＞ 他者との意見の違いから学ぶ態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ①意見を交流する場の設定 ②話を最後まで聞く習慣 ③他者の良いところを発表する場の設定 <p>＜手立て2＞ 発展的な学習に取り組める場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ①単元の構想を決める ②難易度の高い課題をまとめの段階に設定 ③アウトプットの多い活動 ④自己を見つめ、物事を広い視野で考えさせる発問の工夫 <p>＜手立て3＞ 学びの振り返り活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自分の言葉でまとめる時間の確保 ②学んだことを発表・交流する場の設定 ③学びの積み重ね
【視点3】人権感覚を育む環境づくりの工夫 ＜2年間を通して＞	
<p>＜手立て1＞ 学校全体で人権が尊重される人間関係づくりの場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ①生徒会や委員会活動で、生徒主体のいじめ防止活動の推進 ②校内に「人権コーナー」を設置し、作品を掲示する ③異学年、異校種間における生徒同士の認め合える場、支え合える場の設定 <p>＜手立て2＞ 学級・学年全体で目指す方向を共有し、共に励まし合う場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学級目標等に人権を意識した目標を設定 ②言葉遣いや掲示物などの言語環境を整える ③QUテストを活用したより良い学級づくりの推進 <p>＜手立て3＞ 学校・家庭・地域が連携し、生徒の良さを共有し認め合える場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校だよりや学年だよりで生徒の様子を発信する ②学校での頑張りを、積極的に家庭に連絡する ③家庭・地域において、生徒が自己決定できる場を設定する 	

3 研究計画・実践内容

【令和6年度】

(1) 年間計画

月	実践内容・対象
4月	・町教研全体会
5月	・第1回QUテスト(全学年)
6月	
7月	・人権教室(2学年) ・人権作文(2学年) ・人権WEEK(全学年) ・第1回人権感覚チェックリスト(評価)(全学年・全教員)
8月	・拉致問題サミット(代表生徒1名) ・QUテスト結果分析会(全教員)
9月	・国際問題調べ(3学年) ・人権感覚チェックリスト(確認)(全教員)
10月	・第2回QUテスト(全学年) ・人権感覚チェックリスト(確認)(全教員)
11月	・人権感覚チェックリスト(確認)(全教員)
12月	・人権WEEK(全教員) ・第2回人権感覚チェックリスト(評価)(全学年)
1月	・人権感覚チェックリスト(確認)(全教員) ・次年度の推進計画の作成
2月	・人権感覚チェックリスト(確認)(全教員)
3月	・人権感覚チェックリスト(確認)(全教員)

(2) 実践内容

① 人権感覚チェックリストの活用(全学年・教職員)

② 拉致問題サミットへの参加(代表 永山史恩)

令和6年8月9日、東京都の浅草橋で行われた「拉致問題に関する中学生サミット」に、福島県代表として3年生の永山史恩くんが参加した。各都道府県の代表者たちとグループ協議を行い、テレビCMづくりを通して、拉致問題を自分事としてとらえて考えることができた。

③ 人権教室、人権作文(2学年)

令和6年7月9日、矢祭町人権擁護委員の方々にお越しいただき、人権教室を実施した。「立ち止まる」という人権作文から、自分の言葉が相手を傷つけることもあれば、助けることもできることを学んだ。この人権教室を踏まえて、2年生は人権作文に取り組んだ。

④ 道徳の授業における人権にかかわる題材のまとめ取り(人権WEEK)(全学年)

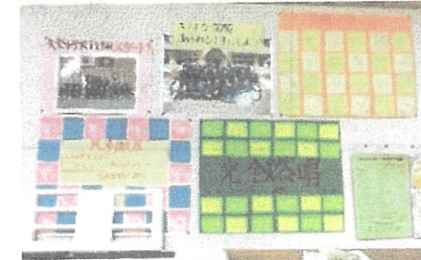
7月上旬、道徳の題材の中から人権にかかわるものを2つ選び、1週間に2回道徳の授業を行った。人とかかわり方を意識しながら、人権について考える機会になった。

⑤ 国際問題調べ(3学年総合学習)

3学年の総合的な学習の時間に8つのグループに分かれ、「女性・性的マイノリティ」「子ども・障がい」「貧困問題」などのテーマ別に、調べ学習を行った。

⑥ 人権コーナーの設置(全学年)

教室に学級の写真を掲示し、生徒の成長が感じられ、生徒が安心して過ごせるような環境づくりを行っている。



(3) 授業実践

① 道徳まとめ取り(全学年)

教材名「言葉の向こうに」 主題名：相手の気持ちを考える

【視点1】 <手立て2> 一人一人が活躍できる場の工夫

(出典：「中学道徳3 あすを生きる」 日本文研出版)

誹謗中傷という言葉があるが、SNS に投稿する際、見えない相手について感情的になってしまうことがある。本時では、コミュニケーションの場で大切にしたいことを、自分事として考えさせた。生徒の振り返りでは、「自分の意見も相手の意見も大切にする」「相手の立場になる」「自分と相手の考え方は違うから、されて嬉しいことがみんな同じではない」「自分がされて嫌なことは相手にもしない」などと自分と相手との価値観の違いに気づいて、臨機応変に対応しようとするコメントがみられた。

② 校内授業研究会道徳科(全学年)

教材名『自分』ってなんだろう 主題名：自己を見つめる

【視点1】 <手立て2> 「一人一人が活躍できる場の工夫」

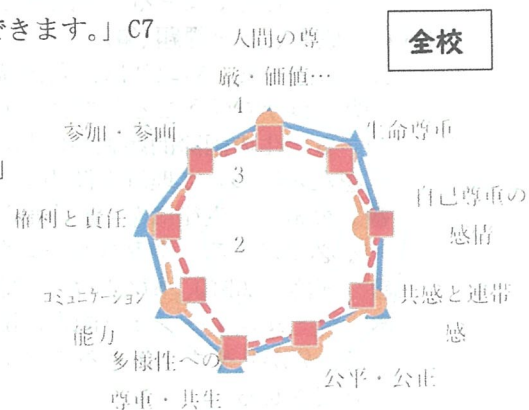
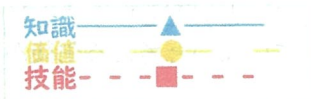
(出典：「中学道徳2 あすを生きる」 日本文研出版)

該当学級の生徒は、どんな活動にも活発に取り組む姿がよく見られる一方で、他人からの評価を非常に気にして消極的になってしまう生徒もいる。本時では、みせかけの自分ではなくありのままの自分を大切にするために何が必要かを考えさせた。生徒は、班での話し合い活動で、他の生徒の意見に耳を傾け、自分の考えを深めるような言動が見られた。また、自己評価と他己評価を比べて自分の良さに気づき、どのように良さを伸ばすことができるかを考えた。



(4) 人権感覚質問紙調査結果より【矢祭中生徒用】

- 「命は、かけがえのない大切なものです。」 A2【生命の尊重】(知識)の項目で、全学年の回答の平均が3.8を上回った。
- 「自分の責任や仕事を果たすことは大切です。」 A8【権利と責任】(知識)の項目で、全学年の回答の平均が3.8を上回った。
- 「身近にある差別について理解しています。」 A5【公平・公正】(知識)の項目で、全学年の回答の平均が3.5を下回った。
- 「自分の考えを分かりやすく友達に伝えることができます。」 C7【コミュニケーション能力】(技能)の項目で、全学年の回答の平均が3.5を下回った。
- 「誰とでも分け隔てなく、接することができます。」 C5【公平・公正】(技能)の項目で、全学年の回答の平均が3.5を下回った。評価が低く、「2」の回答率が多い。



(5) 人権感覚チェックリスト結果より(教職員用)

評価項目	平均値	0%	20%	40%	60%	80%	100%
1 子どもへの関わり方	3.4						
① 登下校時に生徒に率先して言葉を掛け、温かく送り迎えをしているか	3.4						
② 朝の会等で生徒の心身の健康状態を把握しているか	3.5						
③ 生徒が互いの意見や作品等の良さを認め合うことができるような具体的な取り組みを行っているか	3.1						
④ 生徒のいじめ等による変化を見逃さず、学年や学校全体で情報を共有できるよう報告等をするか	3.6						
⑤ 生徒に対し、一方的な思い込みや偏った見方、固定的な性別役割分担意識等ではなく、確かな事実や根拠を基に指導しているか	3.4						
⑥ 欠席した生徒に対し、学校からの連絡内容が確実に伝わるよう配慮しているか	3.0						
⑦ 学習で使用する教具や設備を誰もが公平に使えるように配慮しているか	3.6						
⑧ 体罰や不適切な行為等を未然に防止するために、日常の指導の在り方について相互に点検を行っているか	3.4						
⑨ 特別な支援を要する生徒に対して、その特性を適切に理解するとともに成功体験を増やし、自己肯定感を高めていけるようにしているか	3.4						
⑩ 生徒の保護者との対応の際には、その心情に配慮し共感的な態度で接しているか	3.6						
2 教室環境	3.3						
① 生徒の作品に誤字・脱字があった場合、修正をさせてから掲示しているか	3.1						
② 教室や廊下の黒板や壁などに、落書き等が無いよう気をつけているか	3.6						
3 学校が発行する文書等	3.6						
① 文書等を作成する際には、それを読む人の立場に立ち、意図が誤解なく伝わる表現になるように努めているか	3.6						
② 文書等に誤字・脱字や不適切な表現がないか、複数で点検してから発行しているか	3.7						
4 個人情報の管理	3.5						
① 私物の記憶媒体を持ち込んだり、個人情報を含む資料や電子ファイルを管理職の許可を得ずに持ち出したりしていないか	3.6						
② 名簿、成績の記録等は、机の上に置いたままにせず、保管に十分配慮しているか	3.3						
③ 個人情報に関わる文書や調査等を配付・回収する際は、封筒に入れて相手に確実に手渡すなど十分に配慮しているか	3.6						
④ 健康カードや答案用紙等を担当が担任等に渡す際に、机の上に置いたままにせず確実に手渡ししているか	3.4						

- 「生徒のいじめ等による変化を見逃さず、学年や学校全体で情報を共有できるよう報告等を行っているか。」の項目で、肯定的な回答が多かった。生徒指導委員会や職員室での意見共有が有効になされていると考えられる。
- 「学習で使用する教具や設備を誰もが公平に使えるように配慮しているか。」の項目で肯定的な回答が多かった。安心できる居場所づくりや集中して授業に臨める環境づくりに努めていく。
- 「欠席した生徒に対し、学校からの連絡内容が確実に伝わるよう配慮しているか」の項目で「とても当てはまる」と回答した割合が低かった。

(6) 成果(○)と課題(●)

- 道徳のまとめ取りは、人権 WEEK と称して同時期に2学年で行われた人権教育や人権作文と関連づけて行うことができ、生徒が人権に対して意欲的に学習することができた。
- 3年生の国際問題調べにおいて、子どもや女性の差別問題、教育格差、LGBTQ、障がい者問題などについて理解を深めることができた。
- 欠席した生徒にも、学校からの連絡が確実に伝わるように、個に応じてきめ細やかに対応する必要がある。クラスルームなどを活用し、授業の連絡漏れがないように気を付ける。
- 部落、LGBTQ、障がい者、高齢者など、色々な差別について知る機会を与える。
- コミュニケーション能力に関しては、大切だということは分かっているが、伝えようとはするが、分かりやすく伝えることができていないと考える生徒が多いので、授業で話し合い活動を充実させる。
- 誰とでも分け隔てなく接するために、自分自身の行動を振り返り、相手の気持ちを考えて行動できるような取り組みが必要である。

【令和7年度】

令和7年度においては、令和6年度の課題を受け、生徒へのいろいろな差別を知る機会を増やすために、人権の本を図書室に置いたり、障がい者スポーツを体験したり、障がいのある方の話を聞いたり、東日本大震災伝承館の見学や情報モラル講演会などを計画した。

また、授業内での話し合い活動を重視したり、振り返りの時間を十分に確保したりすることにより、コミュニケーション能力を高めたり、自分自身の振り返り、客観視する力の育成に努めることとした。

(1) 年間計画

月	実践内容・対象
4月	・町教研全体会
5月	・第1回人権感覚チェックリスト(評価)(全学年・全教員)
6月	・第1回QUテスト(全学年)
7月	・人権教室(2学年) ・人権作文(2学年) ・人権WEEK(全学年)
8月	・拉致問題サミット(代表生徒1名) ・QUテスト結果分析会(全教員)
9月	・人権感覚チェックリスト(確認)(全教員)
10月	・第2回QUテスト(全学年) ・並木丘杯のシッティングバレー(全学年) ・目の見えない方の話を聞く会、点字体験(1学年) ・図書室に人権に関する本棚を設置(全学年) ・人権感覚チェックリスト(確認)(全教員)
11月	・人権WEEK(全教員)・人権発表(全学年) ・人権感覚チェックリスト(確認)(全教員)
12月	・第2回人権感覚チェックリスト(評価)(全学年) ・情報モラル講演会(全学年・保護者)
1月	・人権感覚チェックリスト(確認)(全教員) ・次年度の推進計画の作成
2月	・人権感覚チェックリスト(確認)(全教員)
3月	・東日本大震災伝承館見学(1学年) ・人権感覚チェックリスト(確認)(全教員)

(2) 実践内容

① 人権教育指導計画の作成

矢祭町での人権教育の重点実践内容(8項目)の指導に関して、学年ごとに、教科別での指導計画を作成し、教科間の連携を図った。

② 人権感覚チェックリストの活用(全学年・教職員)

教職員は、毎月チェックリストを確認する機会を設け、意識化を図った。また、年間2回(5月、12月)、全校生徒、教職員で評価を実施した。

③ 拉致問題サミットへの参加(代表 高信治仁)

令和7年8月8日、東京都の浅草橋で行われた「拉致問題に関する中学生サミット」に、福島県代表として3年生の高信治仁くんが参加した。事前学習として、自ら新潟の拉致が発生した現場を訪問した。中学生サミットでは、被害者家族の苦しみに心を痛め、各都道府県の代表者たちとグループ協議を行い、CM劇を通して、拉致問題を自分事としてとらえて考えることができた。事後には、拉致問題に関する作文を書いた。



④ 人権教室、人権作文(2学年)

令和7年7月8日、矢祭町人権擁護委員の方々にお越しいただき、人権教室を実施した。「立ち止まる」という人権作文から、自分の言葉が相手を傷つけることもあれば、助けることもできることを学んだ。この人権教室を踏まえて、人権作文に取り組んだ。



⑤ 道徳の授業における人権にかかわる題材のまとめ取り（人権WEEK）（全学年）

7月上旬、道徳の題材の中から人権にかかわるものを2つ選び、1週間に2回道徳の授業を行った。人とかかわり方を意識しながら、人権について考える機会になった。

⑥ 障がい者スポーツ体験

体育祭で全校生でシッティングバレーを実施した。障がいがある人のスポーツを体験することで、人の能力や特性が多様であることを肌で感じ、理解を深めることができた。また、障がいのあるなしにかかわらず、一緒に活動する楽しさや難しさを体験し、相互理解や助け合いの精神を育むことにつながった。



⑦ 目の見えない方の話を聞く会(1学年)

視覚障がいの理解や点字の役割について正しい知識を身につけ、日常生活における不便さや工夫を実感し、共感的な理解を深めることで、共生社会の実現に向けた具体的な行動を考えるきっかけとなった。

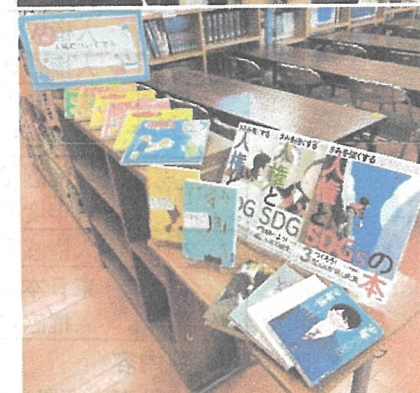


⑧ 人権コーナーの設置

教室に学級の写真を掲示し、生徒の成長が感じられ、生徒が安心して過ごせるような環境づくりを行っている。

⑨ 図書室の人権図書コーナーの設置

人権教育に関する図書に触れる機会を増やすため、図書室の目立つ場所に特設コーナーを設置した。イラストつきで読みやすく、読書になじみのない生徒も手に取りやすいよう工夫した。



(3) 授業実践

① 7月計画訪問

教材名「5月の風—ミカー」 主題名：信頼される友達

【視点2】<手立て1> 他者との意見の違いから学ぶ態度
(出典：「中学道徳2 あすを生きる」日本文研出版)

友情とは、相手の個性を認め、尊敬し、互いに励まし合う平等で対等な関係のことである。また、信頼するとは、相手を疑わず、全面的に頼ろうとする気持ちをもつことである。さらにこれは異性に対してもお互いのよさを認め合うことが重要である。中学生は友達関係の悩みや葛藤を乗り越えることで、真の友情を培っていく。相手の内面的なよさに目をむけ、相手の成長を願って互いに励まし合い、忠告し合える信頼関係のよさに気づくことができた。



② 8月要請訪問

教材名「ヨシト」 主題名：公正な態度

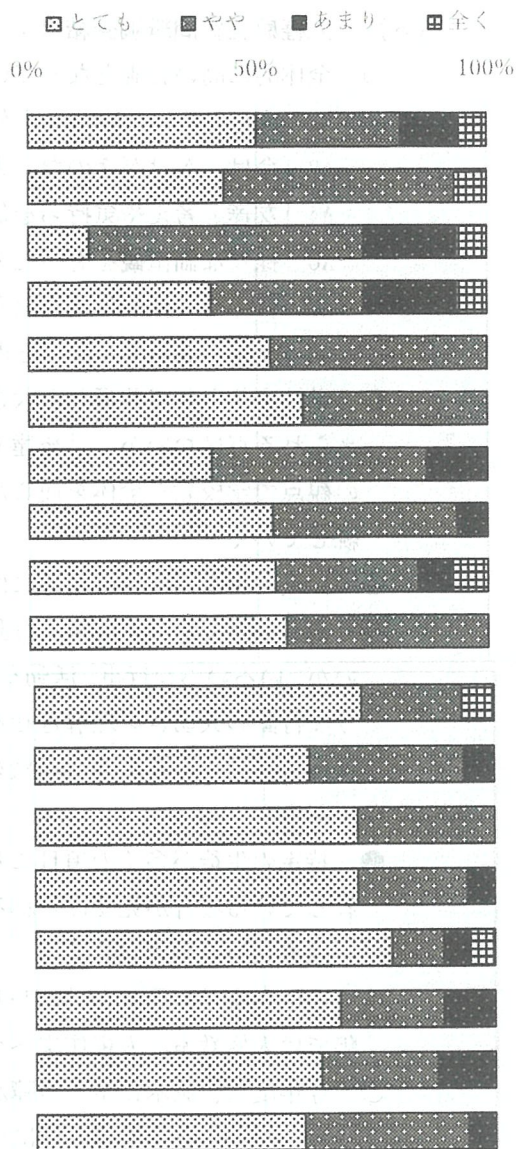
【視点2】<手立て2>自己を見つめ、物事を広い視野で考えさせる発問の工夫
(出典：「中学道徳2 あすを生きる」日本文研出版)

該当クラスの生徒は、落ち着いて学校生活を送ることができており、不正を許さない態度をもつ生徒もいる。一方で人間関係の固定化がみられ、全員と公正にかかわれていない点や、周囲の意見に流される点が課題である。また、自分と異質な意見や考えをもつ生徒を排除しようとする場面も見られる。好き嫌いは感情であるため、すべて無くすことはできないが、好き嫌いの感情にとらわれないように努めることはできる。他者を尊重し、誰に対しても公正に接し続けることの大切さに気付き、周りに流されずに、自分が正しいと思う行動をしようとする態度を育むきっかけとなった。



(4) 人権感覚質問紙調査結果より【教職員用】

評価項目	平均値
1 子どもへの関わり方	3.3
① 登下校時に生徒に率先して言葉を掛け、朝の会等で生徒の心身の健康状態を把握しているか	3.3
② 分からないことを「分からない」と言える安全・安心に学べる学級になっているか(※学びの変革)	3.3
③ すべての生徒が互いの意見や作品等の良さを比較、検討、吟味しながら認め合う時間を確保しているか。(※学びの変革)	2.8
④ すべての生徒が同じ目標を達成することを目指し、教材・学習時間・方法等を個に応じて柔軟に設定しているか(※学びの変革)	3.1
⑤ 生徒のいじめ等による変化を見逃さず、学年や学校全体で情報を共有できるように報告等をしているか	3.5
⑥ 生徒に対し、一方的な思い込みや偏った見方、固定的な性別役割分担意識等ではなく、確かな事実や根拠を基に指導しているか	3.6
⑦ 欠席した生徒に対し、学校からの連絡内容が確実に伝わるよう配慮しているか	3.3
⑧ 体罰や不適切な行為等を未然に防止するために、日常の指導の在り方について相互に点検を行っているか	3.5
⑨ 特別な支援を要する生徒に対して、その特性を適切に理解するとともに成功体験を増やし、自己肯定感を高めていけるようにしているか	3.3
⑩ 生徒の保護者との対応の際には、その心情に配慮し共感的な態度で接しているか	3.6
2 教室環境	3.6
① 生徒の作品に誤字・脱字があった場合、修正をさせてから掲示しているか	3.6
② 教室や廊下の黒板や壁などに、落書き等が無いよう気をつけているか	3.5
3 学校が発行する文書等	3.7
① 文書等を作成する際には、それを読む人の立場に立ち、意図が誤解なく伝わる表現になるように努めているか	3.7
② 文書等に誤字・脱字や不適切な表現がないか、複数で点検してから発行しているか	3.6
4 個人情報の管理	3.5
① 私物の記憶媒体を持ち込んだり、個人情報を含む資料や電子ファイルを管理職の許可を得ずに持ち出したりしていないか	3.6
② 名簿、成績の記録等は、机上に置いたままにせず、保管に十分配慮しているか	3.6
③ 個人情報に関わる文書や調査等を配付・回収する際は、封筒に入れて相手に確実に手渡すなど十分に配慮しているか	3.5
④ 健康カードや答案用紙等を担当が担任等に渡す際に、机上に置いたままにせず確実に手渡ししているか	3.5



※人権感覚チェックシートの内容項目に関しては、令和6年度と3項目変更し、福島県で推進している「学びの変革」とリンクさせた項目とした。

○ 大項目の「2 教室環境」、「3 学校が発行する文書」、「4 個人情報の管理」は、すべて平均3.5を上回っており、意識化が図られている。

○ 「1 子どもへの関わり方」では、⑩「生徒の保護者との対応の際には、その心情に配慮し共感的な態度で接しているか」⑥「生徒に対し、一方的な思い込みや偏った見方、固定的な性別役割分担意識等ではなく、確かな事実や根拠を基に指導しているか」において、平均3.6となっており、根拠に基づいた指導、共感的な態度での対応を心掛けることができている。

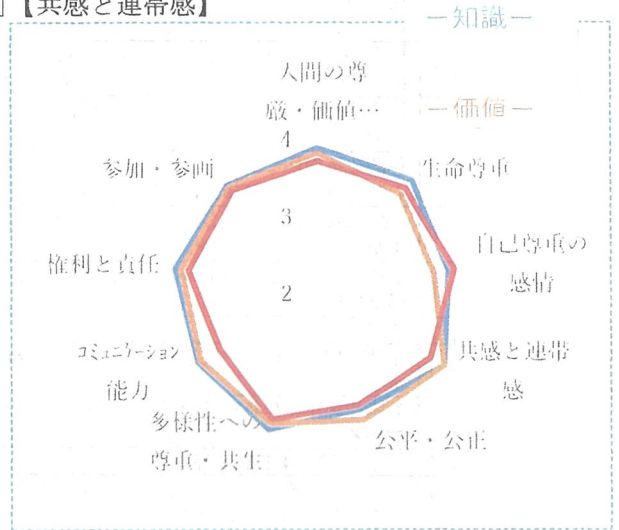
● 「すべての生徒が互いの意見や作品等の良さを比較、検討、吟味しながら認め合う時間を確保しているか。」において、平均2.8と最も低くなっている。教師からだけでなく生徒同士がお互いに「認め合える」場と時間をしっかりと設定すると共に、その意識も持たせたい。

● 「すべての生徒が同じ目標を達成することを目指し、教材・学習時間・方法等を個に応じて柔軟に設定しているか」において、平均3.1となっており、C・D評価の教師がまだいる。それぞれの生徒の実態に応じた支援を心掛けていきたい。

(5) 人権感覚質問紙調査結果より【矢祭中生徒用】

- 全体的に高い評価となっている。特に、全校平均3.9の項目が6項目あった。
A1「人は、みんな一人一人価値ある存在です。」【人間の尊厳・価値の尊重】
A2「命は、かけがえのない大切なものです。」【生命尊重】
A4「友達と考えや気持ちを伝え合うことは大切です。」【共感と連帯感】
A6「様々な価値観をもった人々がいることを理解しています」【多様性への尊重・共生】
A8「自分の責任や仕事を果たすことは大切です。」【権利と責任】
B4「友達の話をしっかり聞いて聞いています。」【共感と連帯感】

- 学校全体として共通した大きな「課題」と考えられる点はないが、「発達支持的生徒指導」の観点で学校教育全体を通じた指導・支援を継続していく。
- 今後の更なる成長のためには、「技能面」を向上させることである。何事も行動に移すことは難しいが、いろいろな行事、活動などを通して、そのような行動の大切さを理解させるとともに、自信を持って行動できるような経験をさせることが大切である。
- 特定の生徒が多く項目において低い評価で回答している場合が見受けられる。個に寄り添った丁寧な対応、支援が必要不可欠である。



(6) 成果(○)と課題(●)

- 道徳のまとめ取り(人権WEEK)によって全学年の生徒に人権について考える機会を設け、2学年では人権教室、人権作文へつなげることで、より考えを深めることができた。
- 今年度は、並木丘祭での障がい者スポーツ体験、目の見えない方の話を聞く会、人権図書コーナーなど、各学年で人権について考える機会をもてるように新たに取り組み、学校生活を通して人権について意識する機会・環境を作ることができた。この機会・環境を継続、発展させることで、人権に対する意識がより深まり、生徒の成長につながると考えられる。
- 生徒同士がお互いに「認め合える」場と時間の設定に改善の余地がある。教師からの伝達で満足せず、生徒が自分で考え、伝え合える活動を増やしていく必要がある。
- 全学年の取り組みでは、個人の振り返りはしたが、その共有は少なかった。他学年と比較することで新たに気づくこともあると思われる。今後の活動で留意したい。

Ⅲ 終わりに

令和6年度、7年度の2年間で矢祭町として、研究主題「主体的・対話的に学び考え表現し、自己実現ができる生徒の育成」副主題「～認め合い、伝え合い、学び合う活動の工夫～」として研究を行ってきた。人権教育に対する教職員側の意識も高まり、生徒一人一人と丁寧に接する場面が多くあった。生徒自身も、仲間を大切にしたり、身近な人権問題や差別について理解を深めたりすることができた。

人権教育の視点は、「一人一人を大切にしたい教育」を実践していく上で大切な視点である。この研究が一過性のものに終わることなく、来年度以降も身につけたものを継続・進化させていけるよう学校全体で取り組んでいきたい。

矢祭中学校人権教育年間指導計画【1学年】

	子ども	女性	高齢者	障害	外国人	インターネット	性的指向	大震災	その他
国語	【はじまりの風】【大人になれなかった弟たちに】					【情報収集の達人になろう】			
社会	アフリカ州 アジア州				人々の生活と環境 アジア州地理単元	北アメリカ州			
数学						第7章：データの分析と活用			
理科								単元4 大地の変化	
英語	Unit8 Think Globally, Act Locally								
保体			運動やスポーツの多様な楽しみ方	シッティングバレー					
技家	家族・家庭生活「今の自分とこれから」								製品の設計、機器のしくみと保守点検
音楽					日本とアジアの様々な表現				
美術									
道徳			ばあば		違いを乗り越えて	言葉の向こうに		震災を乗り越えて	
学活	自分の良さ、友達の良さを見つけよう					インターネット SNSの使い方	様々な性について考えよう		
総合						情報モラル教室		防災教室	SOSの出し方講座
その他	町の未来を語る会								

矢祭中学校人権教育年間指導計画【2学年】

	子ども	女性	高齢者	障害	外国人	インターネット	性的指向	大震災	その他
国語	【アイズプラネット】			【六千回のトライの先に】	【「自分らしさ」を認め合う社会へ】	【メディアの特徴を生かして情報を集めよう】			
社会	日本の地域的特色		日本の地域的特色 近畿地方		ヨーロッパ人との出会いと全国統一			日本の地域的特色 九州地方東北地方	欧米における近代化の進展明治維新
数学						第7章：データの比較			第6章：確率
理科								放射線の性質と利用	
英語				Unit5 What design is good for everyone?	Unit4 What is important in a homestay?				
保体				シッティングバレー				自然災害による危険	
技家	家族・家庭生活「幼児が安心できるかわかり」		技術・情報のユニバーサルデザイン	技術・情報のユニバーサルデザイン		技術・4編情報の技術			技術とものづくりの未来
音楽									
美術									
道徳	5 五月の風 13 他人の眼を覆っている 14 ヨシト		27 コトコの涙	28 マークはなんのために	7 リスペクトアザーズ	15 ネット将棋	24 制服は誰のもの	21 行動する建築家坂茂 30 避難所にて	
学活	自分の良さ、友達の良さを見つけよう					インターネット SNSの使い方	様々な性について考えよう		
総合					ブリティッシュヒルズ研修	情報モラル教室		防災教室	SOSの出し方講座
その他	町の未来を語る会								

矢祭中学校人権教育年間指導計画【3学年】

	子ども	女性	高齢者	障害	外国人	インターネット	性的指向	大震災	その他
国語	わたしを求めないで					情報の信頼性		律儀な桜	
社会	私たちの生活と文化	大正デモクラシーの時代 私たちの生活と文化	私たちの生活と文化	私たちの生活と文化	アジアの民族運動 これからの人権保障	これからの人権保障	私たちの生活と文化		世界史と日本の中国関係 第二次世界大戦と日本 戦後日本の出生 人権と日本国憲法 人権と共生社会 これからの人権保障
数学						標本調査			
理科									生命の起源(個人の尊重、男女平等の課題) 地球と私たちの未来のために
英語					Unit6 What does it mean to be a global citizen?			Unit4 How can we help each other in a disaster?	
保体				シッティングバレー	人々を結びつけるスポーツ				
技家			情報のユニバーサルデザイン	情報のユニバーサルデザイン		技術・4編情報の技術			「持続可能な家庭生活をめざして」
音楽									
美術									
道徳		世界を動かした瞳			命のトランジットピザ		カラフルな世界で	塩むすび	
学活	自分の良さ、友達の良さを見つけよう					インターネット SNSの使い方	様々な性について考えよう		
総合						情報モラル教室		防災教室	SOSの出し方講座